

合併効果を見る

平成18年3月31日

新伊那市誕生

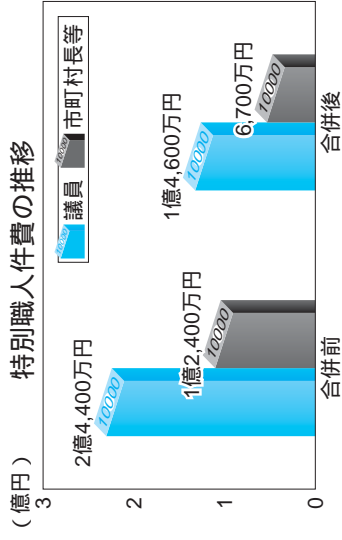


市職員数を大幅に削減

今回の3市町村の合併協議の中では、合併前に比べ10年間で、職員数の2割削減が示されました。

これに基づき、合併後の伊那市では、平成26年度までの職員数の削減を盛り込んだ「定員適正化計画」を昨年10月に策定しました。この計画では、合併前の平成17年4月1日に、832人いた職員を10年後の平成27年度には、657人に削減するとしています。

なお、「定員適正化計画」において、今年度の職員数は、



特別職・議員の人数を削減

市町村合併は、最大の行政改革だと言われます。市町村

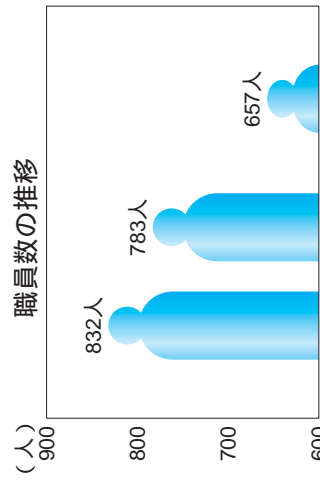
合併により、特別職・議員や市職員の人数と給与が削減されスリム化を図っています。

行政のスリム化は図られたらどうか？

市職員給与を県下最低水準に調整

3市町村の給与体系がそれぞれ異なっていたため統一を図りました。これに合わせて給与水準を抜本的に見直しました。これにより県内19市の中で、最低の給与水準になります。

合併前の平成17年度と合併後の平成18年度を比べると、



800人を目標としていましたが、今年4月1日の職員数は、783人と目標を上回る職員数の削減を図ることができました。

長や議員数が削減されるほか、組織では、重複する管理部門（住民向けの行政サービスを直接行わない人事、財政、企画などの部門）がスリム化され、その分高度で専門的な職務に対応できる職員を充実させることができるため、行政サービスの向上が期待できます。

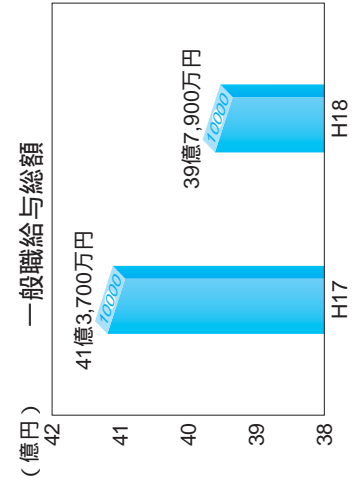
- ・市町村長、助役、収入役、教育長は、合併により1人ずつになりました。
 - 10人↓6人 地域自治体長を含む
 - ・議会議員は、合併により定数がほぼ半分にになりました。
 - 50人↓26人
- ※合併協議で削減の方向が示

組織をスリム化

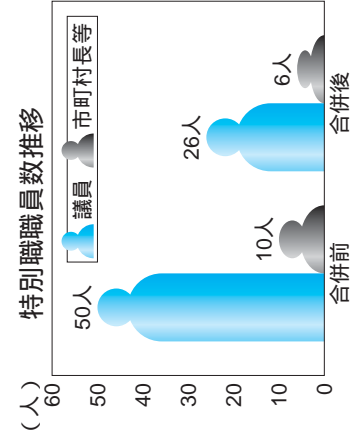
3市町村の合併により、組織のスリム化も図りました。管理部門では、人事・企画・財政などのほか、会計や農業委員会、議会事務局などが一つになり、組織の統一を図りました。

管理職も合併前は71人いましたが、今年度は58人と2割近く減少しています。

今後も、実情にあった組織への見直しを積極的に行っていくことで、組織のスリム化を図ります。



給与総額で約1億6000万円の削減を行いました。



されていることから、さらに議員定数の削減に向けて、現在、議会で検討しています。

- ・特別職の人件費も大きく削減しました。
- 1億5500万円の削減

市民サービスの充実を図られたらどうか？

合併により、組織のスリム化を図り、効率的な行政運営に努める一方、サービスの維持が図られるような対応も行っていきます。

高遠町、長谷地域に総合支所

高遠町地域、長谷地域では、合併前の高遠町役場、長谷村役場を総合支所として、市民

生活に密着した用件は、総合支所で済ませられるよう現地解決型のシステムを作りました。

少子高齢化社会への対応

少子高齢化社会に対応すべく、保健福祉部門については、充実を図り、職員を増やしました。合併前の保健福祉部の職員は260人でしたが、今年度は277人と17人増員し、細やかなサービスができるような対応に努めています。今後も、職員数の抑制に努めながら、社会情勢や市民の要望を把握する中で、市民サービスの向上が図られるように、充実すべき部署は充実

していきたくと考えています。

地域振興への取り組みはどのくらい進んでいますか？

「合併に伴い、周辺地域が寂れてしまつたのでは」といった不安がある中、こうした事態ができるだけ生じないように、また全体に一体感のある発展が図られるよう、次のような地域の活性化、地域の振興策に取り組んでいます。

地域自治体を設置し住民の意見を市政に反映

市全域に9つの地域自治体を設置し、それぞれの地区の代表者により組織する地域協議会を中心に地域住民の意見や提言を行政に反映させやすい仕組みをつくりました。平成18年度は延べ30回の地域協議会が各地で開催され、地域の課題の洗い出しとその対応策など具体的に話し合われてきました。

各種補助事業の充実

地区消防施設の充実、合併浄化槽の設置、防犯灯・自主防災設備、伝統文化の伝承などに係る各種補助事業において、旧市町村制度の良いところを取り入れ、地域振興のための充実を図りました。

特に南アルプスの世界自然遺産への取り組みは、伊那市が長野県の中心となって進めていきます。

地域づくり活動支援金制度の創設

市民の皆さんが自主的に行う地域づくり活動を支援すること、地域課題の解決と地域の活性化を図ります。今年度から「伊那市地域づくり活動支援金」制度を創設し、各地の地域づくり実践活動を応援しています。

二つのアルプスを活かした観光施策

中央アルプスと南アルプスの「ふたつのアルプスに抱かれた」大パノラマを活かし、広い範囲の自然・歴史・文化の連携と発展を考慮した観光施策が始まりました。

世界自然遺産へ取り組む南アルプス



権兵衛トンネル開通に伴う交通の整備

権兵衛トンネル開通後の新たな観光ルートと産業の発展や、病院・学校・買い物などの市民の利便性の向上を図ります。そのため、東西を中心とした道路網の整備や公共交通機関の整備などの計画づくりが、市民の皆さんのご意見を聴きながら行われています。

合併に関わる事業は何か行われているだろうか？

市町村合併により国・県より



行き交う権兵衛トンネル

り受けることのできる有利な制度を活用して、住民サービスの充実を図っています。

市町村合併特例事業（合併特例債）

新市まちづくり計画に基づき、平成27年度までの期間内に行う事業に対して、合併特例債が活用できます。事業費の総額は、10年間で170億円と見込んでいますが、このうち約2/3が交付税措置されています。市では、平成18年度に防災行政無線工事など8事業、3億7000万円を実施しました。今後は、小中学校の耐震補強工事などを中心に行っていく予定です。

市町村合併推進体制整備補助金事業

一体感醸成のため、平成27年度までの新市まちづくり計画期間内に行う事業に対して国の補助が受けられます。補助金の総額は、3億6000万円です。

市町村合併特例交付金事業

合併後の「均衡あるまちづくり」のため、新市まちづくり計画に基づく事業に対し県から支援が受けられます。交付金の総額は6億円です。

過疎対策事業債事業

旧高遠町・旧長谷村で発行されていた過疎対策事業債については、交付税措置の割合が高く有利な地方債でしたが、平成21年度まで両地区の建設事業に活用できます。これを活用して、高遠町・長谷地域では、道路の改良工事などを行っています。

交付税の特例

地方交付税の交付金の算定に当たっては、合併直後に必要となる臨時的な経費に対して、5か年で5億7000万円が措置されます。そのほか、合併算定替えとして、10年間は合併しなかった場合の普通交付税額を全額補償する制度もあります。

主な合併関連事業

市町村合併特例債		
年度	事業名	概要
18	防災行政無線接続工事	防災行政無線の高遠町、長谷地域への接続
19	本庁舎改修事業	本庁舎の改修（外便所設置、交流スペース2カ所、耐震補強）
	高遠消防署建設工事	高遠消防署の建て替えに伴う工事及び用地取得

市町村合併推進体制整備費補助金（国の支援）		
年度	事業名	概要
18	防災ラジオ設置事業	防災行政無線の受信ラジオを区長等へ配布
19	小中学校教育用パソコン整備事業	旧伊那市地域小中学校へのパソコン整備

市町村合併特例交付金（県の支援）		
年度	事業名	概要
18	ハザードマップ作成事業	土砂災害危険渓流などの掲載したマップ作成、防災情報のHPへの公開データ整備
19	図書館システム導入及び蔵書充実事業	伊那、高遠の2図書館と各地区図書室の図書システムの整備（図書の収蔵管理と貸出・利便性の充実）

このような措置により、平成18年度においては、約9億円、19年度においては約18億円の財源が確保された計算になります。合併しなかった場

合に比べ必要な公共投資がしやすく、財政運営にも柔軟性が出てきたことがわかります。

高 遠 町 地 域 協 議 会

年 月	
H18.7.1	<p>高遠町地域協議会委員委嘱 委員 15 名（区会代表 5 名、団体代表 8 名、公募 2 名） 任期 H18.7.1 ~ H22.6.30</p>
H18.8.10	<p>高遠町地域自治区地域協議会委員委嘱式並びに第 1 回地域協議会協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 正副会長選任について ・ 地域協議会の機能と役割について ・ 合併協議結果について ・ 平成 1 8 年度主要事業の概要について
H18.8.30	<p>第 2 回地域協議会協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高遠消防署について（諮問事項） 市町村合併に伴い、伊那消防署、高遠消防署の活動エリアの見直しが行われたこと、また昭和 54 年建設以来 27 年が経過し老朽化も著しいことから、高遠消防署の移転について諮問され、全会一致で了承され、諮問のとおり答申した。 ・ 合併 5 ヶ月が経過したが、市民生活全般や氏が提供する住民サービスについて
H18.9.28	<p>第 3 回地域協議会協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区別懇談会開催結果について ・ 平成 1 9 年度すみよい地域づくり計画書について ・ 地域協議会の今後の運営方法について 協議項目選定や企画立案を行う運営委員の設置、地域協議会の活動内容を伝える協議会だよりの発行などを決める。
H18.10.26	<p>第 4 回地域協議会協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協議会の役割について ・ 地域協議会の今後の運営方法について
H18.11.30	<p>第 5 回地域協議会協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長藤診療所改修工事について 昭和 4 4 年に建築され、老朽化も進みシロアリ等による被害も出ている。このため平成 1 8 年度内で設計を行い、平成 1 9 年度に新築工事が実施さ

	<p>れることが報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高遠町地域衛生自治会について ・ 公の施設の指定管理者の指定について（諮問事項） <p>地方自治法の一部改正によりスポーツ施設、文化施設など公の施設の管理方法について指定管理者制度が導入される。このため高遠町地域における指定管理者制度を導入する公の施設について諮問され、全会一致で了承され、諮問のとおり答申した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高遠町観光イベントの見直しについて <p>合併協議において観光イベントは当面、現行どおり実施するが新市一体的な祭りを調整していくことで調整されている。市役所内の行政改革推進チームにより統廃合案が示され、観光協会内の祭りプロジェクトチームで検討が行われているが、地域協議会としての検討を行い、プロジェクトチームへ提案を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成19年度当初予算について <p>高遠町地域関係の平成19年度予算要求の概要について各課より報告された。また旧高遠町において昭和52年から実施されている「すみよい地域づくり計画」は、住民と行政との協働により地域の課題や要望をまとめているものであり、本計画を基に予算編成が行われていることから、新伊那市においても継続した取扱いを行うよう市長に提案することを協議した。</p>
H18.12.14	<p>第6回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風力発電計画について <p>伊那市入笠山から鹿嶺高原において風力発電建設が計画されており、市長より地域協議会からの意見を聴取された。協議会の見解としては、今までの経過と実態を納得のいくまで住民説明すること、また住民の意向を踏まえ、市としての意思の決定をしてもらいたいということを要望した。大半の委員の意見として、即決では住民に混乱が生じることが予想されるため、行政としても慎重な判断を求める声があった。</p>
H18.12.19	<p>予算編成における「すみよい地域づくり計画書」の取扱いに関する提案を市長に行う</p>
H18.12.21	<p>第7回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 風力発電事業計画に対する議決結果について <p>市議会総務委員会で風力発電計画の是非について採決が行われ、4対3で計画中止が決した。12月20日の本会議においては推進を求める陳情を14対11の賛成多数で採決され、本会議終了後、全員協議会において市長が計画に同意できない建設反対の立場を明らかにされた旨の説明があっ</p>

H18.1.29

た。

- ・ 高遠町地域観光イベント見直しについて
多くの住民が参加できる時期を充分配慮して検討してもらうことを観光協会祭りプロジェクトに提案し検討をお願いする。また祭りプロジェクトによる検討結果について協議会への報告をお願いした。
- ・ 新市の交通対策について
- ・ 新市観光基本計画の策定について

第8回地域協議会

協議事項

- ・ 風力発電事業計画に関する考え方について
昨年十二月定例会で請願陳情された風力発電問題では風力発電反対陳情7件、推進すべきであるという賛成陳情が事業主体からのものを含め3件あり、このことについては6月から継続審議されていた。市長から入笠山から鹿嶺高原の一体にある風力発電施設建設について、景観と災害の面から「反対」の立場を改めて表明し、その考え方について説明があった。
- ・ 世界遺産登録について
世界遺産登録により、国際的な保護、保存の対象となり自然環境が図られることや、マスコミに取り上げられ知名度アップにより周辺の観光振興に繋がることなどが今後期待できる事として報告された。
- ・ 投票所閉鎖時刻繰上措置について
- ・ 高遠地域における今後の住宅施策について
市町村合併により伊那市全体の住宅施策の在り方について庁内プロジェクト会議により協議を行い、今後の施策の方針が示された。今後の方針として、財政状況を鑑み新規の供給は難しい状況であるが、高遠町、長谷地域の衰退は避けなければならないため、UIターン住宅整備や空き家対策事業ソフト事業を織り交ぜた地域振興策を図る、耐用年数が経過している住宅の計画的な建て替え、UIターン住宅の必要性について各区長会長等との協議、などが報告された。
- ・ 伊澤修二音楽祭について
旧高遠町より行われている伊澤修二先生記念音楽祭の開催について協議し、当面の間は今までどおりの音楽祭を継続し、将来的に伊那市全体に浸透してきたなかで集客数の問題等を検討し、会場の変更も視野に入れていくことを伊那市教育委員会および伊澤修二音楽祭実行委員会に提案した。
- ・ 信州高遠美術館の四季展について
- ・ いじめ問題について
教育長より伊那市の小中学校でのいじめの状況等について報告を受けた。現時点での調査結果では伊那市内で20件のいじめの報告があり、高遠町地域の小中学校においても数は少ないものの報告があった。協議会では本件について継続的に協議を行う。

H19.2.26

第9回地域協議会

協議事項

- ・ 振興公社の事業統合について
- ・ 観光協会の合併協議について
- ・ 平成19年度当初予算（高遠町関係予算の概要）について

平成19年度の高遠町地域関連予算の概要について総合支所各担当課長より報告があった。

- ・ 春の高校伊那駅伝2007について
- ・ 新市観光基本計画について
- ・ 高速バス南アルプス号の減便について

地域活性化と南アルプス観光の足として利用されている南アルプス号について、利用客の減少と燃料費の高騰などにより、現行本数を維持し運行することが困難なため、JRバスにおいて一往復の減便を決定したことが報告された。

- ・ 電柱の地中化について

滞在型観光と景観保全の観点から、委員から電柱地中化の提案がされた。旧高遠町では都市計画街路事業が行われ、当時、景観問題からも電柱の地中化について議論されたが、財政面とあわせ変圧器等の機器を設置するための用地を歩道内に設けることが困難等の事情から地中化が実施されなかった。各委員から、地中化そのものへは賛成できるが、莫大な費用が伴うことが懸念される等の意見があり、また多数の委員からは、商店街の活性化がまず優先され、その中の策として電柱地中化が盛り込まれる。との意見があった。次回の協議会で再度協議する。

H19.3.26

第10回地域協議会

協議事項

- ・ 公の施設の管理者の公募について

指定管理者を新たに指定する場合、引き続き従来からの事業者指定する方法と、一般から広く公募を行い指定管理者の選定をしていく方法があり、どちらの方法にするかは、それぞれの施設の性格、目的、これまでの経過等を勘案して決める必要があり、公募する施設の選定については有識者による伊那市指定管理者選定委員会で検討していくことになる。特に地域に密着した施設に関しては、地域協議会での審議も行われていく。

- ・ ごみ処理施設について（学習会）

ごみ問題は生活に直結する大切な問題であり、上伊那広域連合担当者を講師に、ごみ処理施設に関する学習会を行った。

- ・ 電柱の地中化について

行政と商工会、商店の経営者、周辺地域、消費者などで、高遠町地域の特色あるローカル商店としての特徴を売ることができる商店街を目指した商

<p>H19.4.24</p>	<p>店街再生プロジェクトを発足させ、そのうえで一番良い形のビジョンをある程度の期間をもち、電柱の地中化も含めた町並みのあり方を検討することを行政ならびに商工会に提案した。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ問題について 高遠小学校、高遠北小学校の両校に「より良い教育環境協議会」が組織されており、このメンバーの中に地域協議会の委員として加わり、その中でいじめ問題等を関係者とともに考えることが提案され、高遠教育振興課を通じ、両校の「より良い教育環境協議会」への委員の参画をお願いした。 <p>平成19年度 第1回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那市議会議員定数問題特別委員会との懇談会 3市町村の合併協議において、合併協定書第7項に「2期目以降の議員定数については、削減の方向で検討する」と明記され、これに基づき委員会を設置し、新伊那市における議員定数について検討を進めている。委員から類似市町村との均衡を図った定数の確保。これからの議員は、地域エゴではなく広域的な考えを持てる資質が求められる。などの意見が出された。
<p>H19.5.7</p>	<p>第2回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 伊那市地域づくり活動支援金について 地域資源（人、文化、自然など）を活かし、地域課題を地域自らが解決していこうとする実践的活動を支援するための制度を新設し募集が行われた。 町民の祭りについて 観光協会祭りプロジェクトによる協議の結果について報告を受ける。 松枯れ病現状調査と対策について 西高遠鉾持除で松くい虫による松枯れ病が確認され、本地域では初の松枯れ病であり、飛散する前に早急な対策が必要であることを提案し、罹病木の伐倒・燻じょう処理が市において行われた。 保科正之公周年祭実行委員会について 委員から保科正之公の功績や偉業を知ってもらうための周年祭を企画してほしいという提案があり、市からは、全市的な実行委員会を組織し多くの市民参加のもと、大河ドラマ化に向けて推進していくこと、また2011年の生誕四百年に向け、毎年生誕祭を行い、功績を称えていくことが報告された。 野生鳥獣害防止総合対策の早期確立について 鳥獣害は農作物や林産物等の直接被害にとどまらず、生産基盤の破壊や人身に対する被害に及ぶまで至っていることから、防止対策に実効ある抜本的対策の早期の実現に向けた対策について協議した。

H19.5.10	<p>野生鳥獣害防止総合対策の早期確立の提案を市長に行う</p>
H19.6.21	<p>第3回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 頑張る地方応援プログラムについて 総務省主導による、やる気のある地方が自由に独自の施策を展開することにより、「魅力ある地方」に生まれ変わるよう、地方独自のプロジェクトを自ら考え、前向きに取り組む地方公共団体に対し、年間最大三千万円三年間の地方交付税で支援措置が行われる。このプログラムを伊那市では主として高遠町・長谷地域の振興策として活用する方針が示された。プロジェクトは「南アルプス山麓『食と健康』プロジェクト」と題し、「食と健康」をテーマに南アルプス山麓が有する自然、歴史、文化、景観、気候、地形等地域固有の資源を発掘・活用することにより地場産業強化、交流人口の増加を図り、地域振興を図ることを目的としている。 ・ 伊那市総合計画策定について 将来に向けた市民共通の目標と、その実現に向けた中・長期的な計画として、総合計画を策定することを計画してる。次回協議会で高遠町地域協議会としての提案を検討する。 ・ 有害野生鳥獣対策について 県や市町村を超えた広域的な対策として「南アルプス食害対策プロジェクト」が発足され、南信森林管理署、信州大学、長野県、飯田市、富士見町、大鹿村、伊那市により対策協議会を設立し、鹿などの数を減らすための固体数調整を行う鳥獣保護管理計画等が検討されることになった。
H19.7.27	<p>第4回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊那市ごみ中間処理施設用地選定委員会について 上伊那のごみ処理一本化に向け、議会代表や市民団体からの推薦者、識見者、公募者などで構成する「新ごみ中間処理施設用地選定委員会」が発足し、候補地の選定が行われている。今後、委員会の検討結果を受け、12月頃には市長が最終候補地を決定する予定であると報告を受けた。 ・ 伊那市地域づくり活動支援金事業の選考結果について 本支援金に対し、33件の応募があり選考の結果17件が採択され、うち高遠町地域からは3件が採択された。 ・ 交通対策について 市で検討が行われている交通ネットワークシステムの構築について説明があった。旧3市町村ではそれぞれことなる基準のもと交通施策の整備が進められ、地域ごとに施策数の格差が生じている。旧高遠町、長谷村では路線バス撤退が顕著であり町や村で足の確保対策をしなければならぬ事情

<p>H19.9.13</p>	<p>もあり、検討委員会では、採算性を考慮した見直しが検討されているが、高遠町地域に関しては、当面の間は現状維持を基本とし、利便性の向上を目的としたルート変更などについて検討される報告があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伊澤修二先生記念音楽祭について 旧高遠町より行われている伊澤修二先生記念音楽祭について委員より今までどおりの開催が提案され担当課より説明があった。 ・ 伊那市総合計画策定について 前回協議会で募集のあった総合計画への提案について協議会で協議し、「地域住民発議による市民のための効率的行政の推進」と「次期過疎地域自立促進特別措置法の制定について」を提案した。 <p>第5回地域協議会</p> <p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 南アルプス食害対策協議会について 南アルプス周辺におけるニホンジカの生息数は増加する一方であり、高山帯では貴重な高山植物に対する食害、中山間地域では農作物への被害による耕作者の生産意欲減退を招き、荒廃農地、遊休農地の誘発原因の一部となっている。こうした食害から高山植物、農作物を守っていくため関係機関による南アルプス食害対策協議会が設置された。 ・ 北海道県を活用した野生動物追払い事業について 増加の一途をたどる野生動物による農作物等への被害を防除するため、訓練を受けた北海道犬による野生動物の追払い事業に取り組むことが報告された。 ・ 交通対策について 現在検討されている交通ネットワークシステムの構築について、利便性があがると思われるルートについて検討されている報告があった。また伊那市におけるボランティア輸送の事例紹介を受けた。 ・ 本通り改修について 本通りの歩道での負傷者がいることから改修の提案が委員より行われ協議された。 ・ 平成20年度すみよい地域づくり計画について 各地区担当者により地区より吸い上げた平成20年度計画について報告を受けた。
<p>H19.10.12</p>	<p>第6回地域協議会</p>

高遠町 地域協議会だより

平成19年2月発行 創刊号

協議会だより発行にあたって



会長 北原公雄

高遠町地域協議会は、合併による行政規模の拡大によって、この地域が寂れることなく、より一層住みやすい地域として発展するための一翼を担う協議機関として、昨年八月に発足しました。

この地域協議会は、市町村の合併の特例に関する法律の適用を受け、高遠町地域自治区内(高遠町総合支所)に十年以内の期限をもって設置された機関であります。

地域協議会には、議会のような議決権はありませんが、その役割は大きく次の二つに分けることができます。

一つ目には、伊那市の施策の推進に関する重要事項についての諮問に対する答申です。

二つ目には、高遠町地域の皆様方から寄せられる情報や多様な意見、提言等について集約し、協議・調整して、伊那市等関係機関へ意見具申することです。

全国的に先進例が少なく手探りのところが多く中で、十五名の委員の情熱と

真摯な取り組みにより、発足以来六ヶ月間で八回の協議会を開催し、四十数項目について協議等を重ね、答申や意見具申を行ってまいりました。

本協議会の活動状況を皆様方にお知らせすることにより住民の皆様との連携を強化し、ともに新しいまちづくりに尽くして参るための媒体として、新聞やホームページの開設に加えて、今回新たに「地域協議会だより」を発行することになりました。

ご一読いただきますとともに、今後、皆様方からの更なるご指導や忌憚のないご意見、ご提言をいただきますようお願い申し上げます。



地域協議会委員の紹介

私たちが、高遠町地域協議会委員です。任期は、平成22年6月30日までとなっております。(敬称略)

会長

北原公雄(川辺) 二義区長会推薦

副会長

秋山靖樹(荒町) 藤沢区長会推薦

委員

柿木邦夫(若宮) 高遠地区区長会推薦

北原和門(四日市場) 長藤区長会推薦

伊藤 脩(上北) 河南区長会推薦

秋山文男(共信高遠まちづくり委員会推薦)

蜷川清人(田の口) 高遠小学校PTA推薦

丸田南枝(番匠) 高遠町婦人会・高遠町女性団体連絡協議会・高遠町婦人教育推進協議会推薦

柳沢秀一(本町) 高遠町商工会推薦

守屋文裕(片倉) 上伊那農業協同組合推薦

竹内政宏(小原中)

伊那市農業者協議会東部地区推薦

松井教一(久保) 高遠町観光協会推薦

池田悦子(的場)

伊那市高遠町民生児童委員協議会推薦

山根健司(黒沢) 一般公募

丸山宏一(相生町) 一般公募

第一回地域協議会

『よりのよい地域を目指し』

第一回地域協議会が、平成18年8月10日（木）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

市長より委員の委嘱が行われたほか、正副会長の選任など7項目について協議が行われ、高遠町地域協議会の活動が始まりました。

協議事項

正副会長の選任について

会長 北原公雄 副会長 秋山靖樹

地域協議会運営要綱について

地域協議会の機能と役割について

合併協議結果について

平成18年度主要事業の概要について

「伊那市の歌」を市歌にすることに關する陳情について

広く地域住民の意見を聞く必要がある、専門家を加えた専門委員会を検討してはどうかなどの意見が出されました。

「入笠山・鹿嶺高原の風力発電事業」についての陳情について

賛否ではなく公平な面での説明や議論が必要である、地元住民の意見を十分聞いた上で進めてほしい、実際には地元住民は具体的な内容は何も知らない状況である、住民説明会を開催してほしい等の意見が出されました。

9月には、事業を計画している民間の事業者主催による風力発電事業に関する説明会が町内6地区で開催されました。

第二回地域協議会

高遠消防署移転について 諮問される

第二回地域協議会が、平成18年8月30日（水）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

高遠消防署の移転についての諮問のほか、合併後5ヶ月が経過し市民生活や住民サービスの状況などについて協議を行いました。

協議事項

高遠消防署の移転について（諮問事項）

高遠消防署は昭和54年に建築され、以来27年が経過し老朽化が著しい状況となっています。

旧伊那市の一部地区では、緊急時に現場に駆けつける時間が高遠消防署の方が早い地区もあり、また高遠消防署と長谷分遣所の統合により、長谷地域全域が火災時の出動エリアにもなりました。これらを考慮する中、小原地籍が移転の候補地となっています。

候補地への移転については全会一致で了承され、諮問内容のとおりで答申されました。

合併後の市民生活や市民サービスについて7月の梅雨前線豪雨災害について、合併により対応が手薄になることも心配されました

が避難所対応など良かった点や、早期の災害復旧の実施などについて意見が出されました。また高遠町地域の魅力をもっと市全体へPRする必要がある等の意見が出されました。

第二回地域協議会

第三回地域協議会が、平成18年9月28日（木）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

高遠町地域で開催された地区別懇談会の開催結果と平成19年度すみよい地域づくり計画書について報告が行われたほか、地域協議会の今後の運営の方法について協議を行いました。

協議事項

地区別懇談会の開催結果について

平成19年度すみよい地域づくり計画書について

地域協議会の今後の運営方法について

協議項目の選定や企画立案を行う運営委員の設置、高遠町地域選出の議員や区長会、各種団体等との懇談会や知識向上のための研修会の開催、住民の皆様へ地域協議会の活動内容を伝える協議会だよりの発行について協議が行われました。

第四回地域協議会

第四回地域協議会が、平成18年10月26日（木）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

地域協議会の果たす役割について改めて学びました。また前回の協議会より引き続き今後の運営方法について協議を行いました。

協議事項

地域協議会の役割について

地域協議会の今後の運営法について

運営委員会の具体的な役割の検討、地域や団体へ協議会で審議した内容の開示方法として協議会だよりの発行などを決めたほか、区長会や団体会議への委員の出席について、再度、要請することを確認しました。

また高遠町地域選出議員との懇話会の実施について協議を行い、次回の協議会で実施することを決定しました。

第五回地域協議会

観光イベント見直しを協議する

第五回地域協議会が、平成18年11月30日（木）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

長藤診療所改修工事の概要、高遠町衛生自治会の設置などについて報告が行われたほか、公の施設指定管理者の指定についての諮問や観光イベントの見直しと平成19年度当初予算について協議が行われました。

また今回の協議会には高遠町地域選出議員に出席していただき、地域協議会と意思統一を図り、今後も連携のとれた活動を要望しました。

協議事項

「地域協議会における議事運営に関する申し合わせ事項」について

長藤診療所改修工事について

長藤診療所は昭和44年に建築され、老朽化も進みシロアリ被害も出ています。このため平成18年度中に設計を行い、平成19年度に新築工事を行う計画です。計画では現在の駐車場の位置に新築することにより、診療所の営業を止めることなく工事を行う予定であり、併設するリハビリ施設とは渡り廊下でつながり引き続き利用ができます。

委員からは、将来的に太陽光発電などによる自然エネルギーの利用や光ファイバーの活用による大病院との情報交換・情報共有の整備などの意見が出されました。

高遠町地域衛生自治会について

衛生自治会の設立に関し報告が行われました。委員からは衛生自治会の活動が市民の意識のレベルアップにつながれば良い、などの意見が出されました。

公の施設の指定管理者の指定について

（諮問事項）

地方自治法の一部改正によりスポーツ施設文化施設など公の施設の管理方法について管理委託制度が廃止され、指定管理者制度が導入されました。これにより管理の範囲がNPO法人やボランティアを含む民間事業者、住民組織にまで広がりました。今回、地域に密

着した体育施設の管理について地元地区にお願いすることになります。

指定管理者としての指定については全会一致で了承され、諮問内容のとおりで答申されました。

高遠町地域観光イベントの見直しについて

合併協議において観光イベントは当面、現行どおり実施していくが、新市一体的な祭りを検討していくことで調整がされました。今回、市役所内の行政改革推進チームにより廃止、縮小、充実などイベントの見直し案が示されました。現在、高遠町観光協会内に祭りプロジェクトチームを作り、この案を基に高遠町地域の祭りの検討が行われています。現在の検討内容では、だるま市、さくら祭り、秋祭りは継続実施、ほたる祭りは廃止、城下祭りと灯籠祭りを統合して充実することで検討されています。地域協議会として来年以降のイベント実施について検討を行いました。

委員からは、祭りの趣旨から城下祭りと灯籠祭りを統合するべきではない、城下祭りのような地域全体の祭りは継続するべきであるといった意見があり、一方で合併によりイベントの期間が短いため区長が参加動員に苦慮しているという意見もありました。

地域、各団体から各委員が意見を集約し、次回の協議会で再度検討を行うことにしました。

平成19年度当初予算について

高遠町関係の予算要求の概要について報告

がありました。長藤、藤沢、三義地区で行われている定住対策住宅の今後の整備や、防火水槽整備の予算化などについて委員より意見が出されました。

また旧高遠町において昭和52年から実施されている「すみよい地域づくり事業計画」は住民と行政との協働により地域の課題や要望をまとめており、地域における多様な意見が集約されています。旧高遠町では、このすみよい地域づくり計画に基づき予算編成がなされており、新伊那市においても継続した取扱いをしていただくよう市長、自治区長あてに意見具申を行うことを決めました。市長への提案は12月19日に実施されました。

第六回地域協議会

風力発電施設建設を 考える

第六回地域協議会が、平成18年12月14日（木）高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

今回の地域協議会は、風力発電施設建設に関する問題について、実情を市長から説明いただき協議を行いました。

協議事項

風力発電計画について

国の新しい法律の制定により、電力会社は総電力量のうちの数パーセントは風力、バイオマス、太陽光などの新エネルギーで賄わな

ければならなくなりました。中部電力管内ではほとんど風力発電は行われていません。風力発電施設の多くは、海岸、平地などに設置がされてきましたが、入笠山から鹿嶺高原にかけて設置されれば、山岳地帯への設置となり県内では初めてとなります。

市長からは、国の政策の中で新エネルギーの使用が義務付けられています。千キロワット以下の小水力発電が対象であり、現在行われている通常の水力発電による電力が含まれていないことが問題視され、これらの基準について国に申し入れを行っていききたいとの報告がありました。

また長野県から中・大型風力発電施設に関して、災害や環境などの観点から影響が想定される地域マップが10月に公表されました。この中の基準として、特に立地について原則として除外すべき地域をレベル1とし、立地について慎重に検討すべき地域をレベル2としています。入笠山周辺地域はレベル2とされています。

各委員からの意見としては、地球温暖化対策として風力発電は有効であるが、施設の製造、運搬、建設、廃棄の過程で出てくる二酸化炭素などがありトータルして地球温暖化対策につながるのか、災害の面から現段階で地元住民の安全が保障されていない状況で建設を論ずるところまで至っていない、地滑りなどの住民へのリスクの問題などの意見が出されました。また景観面から、桜という財産を

祖先が残してくれたが風車というものを後世に残しても良いものか、景観、自然を破壊してまで作らなければならないのか、といった意見が出されました。

一方で高遠町・長谷地域の過疎化からの脱却を図るうえで、風力発電施設の建設にあわせ、林道整備を実施し森林整備を行う、施設が建設されれば観光振興にも活かすことができる、といった地域振興策として施設建設の必要性を唱える意見もありました。

協議会の見解として、今までの経過と実態を納得のいくまで住民説明をしてもらいたい、また住民の意向を踏まえ、市としての意思の決定をしてもらいたいということを要望しました。大半の委員の意見として、即決では住民に混乱が生じることが予想されるため、行政としても慎重な判断を求める声がありました。

お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方は、地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、『<http://www.city.ina.nagano.jp/info/kyodo/chiikigiyogikai.html>』をご覧ください。

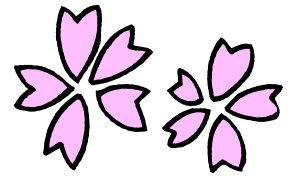
編集発行 高遠町地域協議会事務局

（事務局 伊那市高遠町総合支所総務課内）

電話 94 2551 FAX 94 3697

Eメール t-sou@nacity.jp

高遠町 地域協議会だより



平成19年4月発行 2号

地域協議会だより第2号では、第七回、第八回地域協議会の模様をお知らせします。

第七回地域協議会

新市の交通対策を検討

第七回地域協議会が、平成18年12月21日(木)高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

風力発電事業計画の議決結果について地域自治区長より報告をつけました。また観光イベントの見直しや各委員からの提案事項などについて協議を行いました。

協議事項

風力発電事業計画に対する議決結果について

第六回地域協議会に小坂市長が出席し、風力発電に関する説明の後、委員との意見交換を行いました。地域協議会としては、十二月定例会で賛否を決するのではなく、住民の意見を十分に収集し慎重に判断することを求めました。

地域自治区長より、その後の十二月議会の議決結果について報告がありました。

12月18日市議会総務委員会で風力

発電計画の是非について採決が行われ、4対3で計画中止が決まりましたが、12月20日の本会議においては推進を求める陳情を14対11の賛成多数で採決され、本会議終了後、全員協議会において市長が計画に同意できない建設反対の立場を明らかにされた旨の説明がありました。

高遠町地域観光イベントの見直しについて

第五回地域協議会に引き続き、高遠町地域における観光イベントについて協議が行われました。

各委員が地域、各団体からの意見を集約し、今回の協議会で再度検討を行いました。委員からの主な意見としては、祭りへの補助金等の予算は、行政改革の声を加味する中で、若干の見直しと中身の工夫の必要性がある。祭りの本質には、地域住民が一体となる地域自治が深く関わってきているため、祭りに向けて住民が一体となり楽しむことのできる仕掛けが必要である。といった今後の中身の工夫、検討などの意見がありました。また、住民が参加する祭りを伊那まつりとした場合、遠隔地からの参加が無くなってしまふ事を懸念する意見がありました。地域協議会の意見として、高遠町地域住民が手踊りなど祭りに参加したこと

を実感が持てる内容、また多くの住民が参加できる時期を充分配慮して検討してもらうことを観光協会祭りプロジェクトに提案し検討をお願いしました。また祭りプロジェクトによる検討結果について協議会への報告をお願いしました。

各委員からの提案事項について
新市の交通対策について

高遠町地域では従前より、高齢者等の交通弱者の通院や買い物など足の確保対策に力を入れてきました。伊那市でも全市的な交通体系の検討に着手しました。地域協議会としても本件について議題とし充分検討を行っていく事が委員から提案されました。

現状の問題点、よりよい交通体系のアイデアなどが各委員より提案され、問題点としては、現状のバス運行は朝夕に集中し、昼間の運行が少ないため当てにできない。電車とバスとのダイヤのずれなどの意見がありました。アイデアとしては、ボランティアによる運送、シルバーのバス運転経験者の活用、小型バスの使用などが提案されました。今後の利便性を考えるなか、高校生が通学に使用するJRバスの存続や高遠駅でのいくなちゃんバスの接続などの意見が出ました。

交通体系の整備を行う場合、企業は



ある程度の採算性を求めていく必要があり、それを補う行政としての負担にも限界があります。利用者からある程度の負担もやむを得ないため、企業、行政、利用者との協働により、地域の実態にあった交通体系整備の協議の必要があります。具体的な路線等の検討は新市の交通体系検討委員会で行っていくことになりませんが、地域協議会では本件の協議を継続し、また交通体系検討委員会として松井委員が参加していますのでパイプ役として、地域協議会での検討結果を繋げます。

新市観光基本計画の策定について

現在、伊那市では合併を経て高遠町、長谷という全国的にも有数の観光地が伊那市となり、観光行政が非常に重要となっています。このため商工業、農林業、教育のすべてを捉える形での観光を総合産業として、伊那市独自の観光基本計画を策定し、その内容を総合計画にも盛り込んでいく考えています。この観光基本計画策定委員会には高遠町地域からも協議会委員の山根委員をはじめ4名の方が委

員として活動されています。委員からは、旧高遠町のまちづくり委員会からの提言において、綿密な観光資源調査や観光行政への提言がされているので、これらを踏まえて基本計画を策定してもらいたい。旧高遠町が守り培ってきた文化や史跡などを大事にPRし、特色のある観光に活かしてもらいたい。城下町プロジェクトなど、いままで行ってきた“高遠らしさ”を反映してもらいたい。という意見が出ました。

また高遠町地域住民がみはらしや南アルプスを、伊那地域の住民がさくらを、全ての市民が観光に誇りを持ち、それぞれの地域を越えて観光をPRすることができるような意識付けを計画の中に盛り込んでもらいたい。塩の道、秋葉街道、甲州街道など由緒ある街道をクローズアップしたり、伊那市全体の観光ストーリー作りなどが提案されました。これらの意見は山根委員を通し、観光基本計画策定委員会に繋がります。

第八回地域協議会

風力発電建設に関する市長の考えが示される

第八回地域協議会が、平成19年1月29日(月)高遠さくらホテルで開催されました。

伊那市長より風力発電施設建設に関する考え方について報告を受けました。また世界遺産、投票所閉鎖時刻の繰り上げ措置、高遠地域の今

後の住宅施策等について報告を受け、伊澤修二音楽祭等、各委員からの提案事項について協議を行いました。

協議事項

風力発電施設建設に関する考え方について

昨年十二月定例会で請願陳情された風力発電問題では風力発電反対陳情7件、推進すべきであるという賛成陳情が事業主体からのものを含め3件あり、このことについては6月から継続審議されました。

市長からは、入笠山から鹿嶺高原の一体にある風力発電施設建設について、景観と災害の面から「反対」の立場を改めて表明し、その考え方について説明がありました。

災害の問題としては建設用道路を開設しなければならぬため、この影響による土砂災害が懸念される。また景観の問題として、南アルプスは自然宝庫であり、その南アルプスの前山に、高さ100mを超える構造物が作られることはいかなるものか。との考えが示されました。

市長は自然エネルギーである風力発電そのものは否定しないものの、それぞれの地域にふさわしいエネルギーを確保していくことが重要であり、伊那市には高遠ダムの放流水や農業用水路など水力発電を開発する余地が多分にあるため、積極的に小水力発電を導入していく考えが示されました。

委員からは、南アルプススーパー林道開設

の際にも、当時大きな反対があったが、現在は多くの登山客が訪れており、新しいことを始めるときには反対が多数を占めるものであるため、後年において後悔の無いようにしてもらいたい。高遠町、長谷地域では過疎化の進行が顕著な状況であり、地域振興対策として何らかの起爆剤が必要である。地域の住民を二分する感情の問題が発生しており、早い時期に住民意識の緩和をしてもらえよう。それぞれの地域の振興対策をお願いしたい。といった風力発電に寄せる地域振興への考え方と、それに代わる新たな地域振興対策を要望する意見が出ました。市では地域振興対策について庁内に設けたプロジェクトチームにより検討を進めていく考えが示されました。世界遺産の概要について

現在、長野県、静岡県、山梨県の3県の伊那市を含む関係市町村により、南アルプス世界遺産自然登録長野県連絡協議会が設立され、世界遺産登録推進に向けた連携、情報共有、学術調査研究などが行われています。

世界遺産登録により、国際的な保護、保存の対象となり自然環境が図られることや、マスコミに取り上げられ知名度アップにより周辺の観光振興に繋がることなどが今後期待できる事として報告されました。

投票所閉鎖時刻の繰り上げ措置拡大等については、公職選挙法の規定により4時間の範囲内において実施できることにされています。市町村合

併により、開票所（市役所）から遠距離に所在する投票所では投票箱等の送致が開票予定時刻直前となるため事務処理に支障を来しており、対応に苦慮する状況が散見されています。投票事務を確実に実施するため住民の生活態様を考慮の上、有権者数、交通事情の面から、少なくとも開票開始15分前の到着可能な区域を投票所から直線距離10kmと設定し、その区域外の投票区について繰り上げが行われることについて報告がありました。

高遠地域における今後の住宅施策について
旧高遠町における定住対策は若者世帯、若年層夫婦を対象とした住宅整備、町外からの定住人口を増やし、過疎の歯止め、高遠北小学校の複式学級阻止のためのUJイーターン者優先住宅整備、空き家対策事業に力を入れてきました。

市町村合併により伊那市全体の住宅施策の在り方について庁内プロジェクト会議により協議を行い、今後の施策の方針が示されました。今後の方針として、財政状況を鑑み新規の供給は難しい状況であるが、高遠町、長谷地域の衰退は避けなければならないため、UJイーターン住宅整備や空き家対策事業ソフト事業を織り交ぜた地域振興策を図る、耐用年数が経過している住宅の計画的な建て替え、UJイーターン住宅の必要性について各区長会長等との協議、などが報告されました。

委員からは旧高遠町は住宅施策により定住人口を増やし過疎対策を行ってきたこと

から、新市となって過疎地域が追いやられることや、過疎の進行をそのままにすることのないようにしてほしい。旧高遠町の頃のように住宅施策には力を入れ継続して進めてもらいたい。町外から定住してきている方で多くの方が活躍しているという事業効果もあり、こうした状況を広く市に対してPRし理解してもらおう必要もある。といった過疎対策としての住宅施策を継続する意見がありました。各委員からの提案事項について

芸術・文化イベントについて

・伊澤修二音楽祭について

伊澤修二音楽祭の開催場所等について、各委員が所属する団体の中で話題となつていきます。地域協議会では今後の音楽祭の在り方について検討を行いました。また伊澤修二音楽祭実行委員会において協議が行われるなか、伊澤先生の出身の高遠町地域で今までどおり音楽祭が開催されるべきであるという意見と、合併したのであるから伊那県民文化会館など大きな会場で行えばよいという2案が出ています。委員からは、今までどおり高遠町で開催し、伊那市全体にPRし高遠町まで足を運んでもらう良い機会にすればよい。伝統ある音楽祭であり、小中学生にとっても良い思い出となっている。と、伊澤修二先生の生まれた高遠町地域で開催されることを望む意見が全ての委員よりありました。当面の間は今ままでどおりの音楽祭を継続し、将来的に伊那市全体に浸透してきたなかで集客数の問題等を

検討し、会場の変更も視野に入れていくことを伊那市教育委員会および伊澤修二音楽祭実行委員会に提案しました。

・信州高遠の四季展について

信州高遠の四季展は平成12年の第1回以来、四季に美しいこの地域の自然や風景を題材に、全国の画家や絵画愛好家が高遠を訪れ絵を描くことにより、「芸術のまち」をPRし伊那市の良さを知る絶好の機会として企画運営されてきました。財政状況の厳しいなか、今後の運営方法について検討しました。委員からは、町を客が歩かない町は寂れた町と言われるが、商店街に作品が飾られ多くのお客さんが町を歩いてくれた。芸術文化はその土地の特徴をあらわすものであり、高遠を中心に続けてもらいたい。旧高遠町から伊那市まで範囲が広がり、伊那市の企業からも寄付金を募ることにより、さらに内容を充実させる。といった充実して継続して開催されることを要望する意見が出ました。地域協議会では第4回四季展の実施に向けて後押しをしていくことを確認しました。

いじめ問題について

現在の社会問題としていじめ問題が取り上げられています。今回は教育長より伊那市の小中学校でのいじめの状況等について報告を受けました。市では11月以降、毎月いじめに関する調査を行い絶えず注意と関心を図っています。現時点での調査結果では伊那市内で20件のいじめの報告がありました。高遠町地

域の小中学校においても数は少ないものの報告がありました。

地域協議会では本件について継続的に協議を行い、地域の子供たちをより良い方向へ導くことができると考えています。



本号より地域協議会委員の紹介を兼ね、委員が日頃、感じていることや協議会への意気込みを掲載していきます。



副会長
あきやま やすき
秋山 靖樹
藤沢区長会
推薦

給与生活の傍ら朝晩百姓で田圃を耕作して四十有余年、余裕の時間が無く、子供達を旅行に連れて行ったのは、たったの一回長島温泉に連れて行っただけで古希を迎えようとしている今日。

ある日突然「ブンブン、ブンブン」と自動車が走る様な異変な音に気付き、窓を開けて見ると、何やら黒い固まりが、目の前をゆっくり動いて行くのが見えました。まさしく蜜蜂の「ぶんぼう」で、子供時代に見た光景と同じでした。

数時間後、あの蜂の大群は隣りの家の軒先に、それは豪華な、大きなシャンデリアが光り輝いているかの様で感動しました。女王蜂を中心にして周りを一万匹とも、二万匹とも知れない蜂の大群が羽をブンブン震わせて居りました。突

然の出来事で、慣れない手つきで大群を素早く巣箱に入れ、巣箱に入った蜜蜂の箱を我家の庭に移して一年が過ぎた、昨年五月、この巣から「ぶんぼう」が五、六回も有りました。



妻は朝から午後三時頃まで蜂の様子を監視して、ぶんぼうの気配が有れば私の携帯に連絡が有り、私は田圃にいても急いで帰宅し、ぶんぼうした蜂を新しい巣箱に入れるのが今の私の楽しみの一つ、逃げられる事もしばしば有ります。一年通して蜜蜂を夫婦で観察しながら、忙しかった若き時代、健康であった事への感謝と老後について等、話しております。

私の大好きな言葉

「今やらねば いつできる

俺がやらねば 誰がやる」

お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方、また地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、
『 <http://www.city.ina.nagano.jp/info/kyodo/chiiikigiyogikai.html> 』
をご覧ください。

編集発行 高遠町地域協議会事務局

(事務局) 伊那市高遠町総合支所総務課内)

電話 94 2551 FAX 94 3697

Eメール t-sou@nacity.jp

高遠町 地域協議会だより

平成19年6月発行 3号

地域協議会だより第3号では、第九回、第十回、平成十九年度第一回地域協議会での協議等を行った結果をお知らせします。

第九回地域協議会

平成十九年度 当初予算が示される

第九回地域協議会が、平成19年2月26日(月)高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

高遠町地域関係の平成19年度当初予算の概要、新市観光基本計画などについて報告をつけました。また委員からの提案事項として電柱地中化について協議を行いました。

報告事項

振興公社の事業統合について

観光協会の合併協議について

平成19年度当初予算(高遠町地域関係予算の概要)について

平成19年度の高遠町地域関連予算の概要について総合支所各担当課長より報告がありました。主な事業では合併により活動範囲の広がった高遠消防署の移転改築、老朽化に伴う長藤診療所改修工事、子育て支援センター開設、進徳館・大手坂保存修理、伊澤

修二先生記念音楽祭、協働のまちづくりを実践するため特色ある地域活動を支援する地域づくり活動支援事業などについて説明がありました。委員からは旧高遠町から行われている定住対策住宅整備事業が予算化されなかった点について質問があり、自治区長から定住対策はプロジェクトチームを組織し、伊那市全体による計画を検討し整備される説明がありました。

高遠町関係の主な事業

地域協議会

- ・地域づくり支援交付金事業
 - ・すみよい地域づくり計画事業
 - ・自動交付機設置事業
 - ・高遠町柔剣道屋根改修工事
 - ・伊澤修二先生記念音楽祭
 - ・進徳館・大手坂保存修理事業
 - ・中山間地域直接支払事業
 - ・市単独有害鳥獣病害虫防除対策事業
 - ・高遠城址公園管理
 - ・高遠しんわの丘ローズガーデン管理
 - ・振興公社事業の事業統合
 - ・道路改良・舗装工事、舗装新設、修繕
 - ・子育て支援センター開設
 - ・長藤診療所改修工事
 - ・高遠消防署移転新築工事
 - ・防火貯水槽設置工事
- 春の高校伊那駅伝2007について
新市観光基本計画について
新伊那市の誕生により新たな観光

理念の構築が求められていることから、観光施策推進の指針となる観光基本計画の策定について報告がありました。なお、観光基本計画策定委員には市から本協議会の山根委員が選任されておりあります。

委員からは、観光を行政の大きな柱として位置づけ、旧市町村で培ってきた観光を集大成し新市の発展に貢献する観光産業を育成するべきである。という提案がありました。

高速バス南アルプス号の減便について
地域活性化と南アルプス観光の足として利用されている南アルプス号について、利用客の減少と燃料費の高騰などにより、現行本数を維持し運行することが困難なため、JRバスにおいて一往復の減便を決定したことが報告されました。

減便対象便 1号・2号の一往復

協議事項

各委員からの提案事項について

電柱の地中化について

滞在型観光と景観保全の観点から、委員から電柱地中化の提案がされました。

旧高遠町では都市計画街路事業が行われ、当時、景観問題からも電柱の地中化について議論されましたが、財

政面とあわせ変圧器等の機器を設置するための用地を歩道内に設けることが困難等の事情から地中化が実施されませんでした。

各委員からは、地中化そのものへは賛成できるが、莫大な費用が伴うことが懸念される等の意見があり、また多数の委員からは、商店街の活性化がまず優先され、その中の策として電柱地中化が盛り込まれる。との意見がありました。次回の協議会で再度協議することになりました。

第十回地域協議会

ごみ処理問題を考える

第十回地域協議会が、平成19年3月26日(月)高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

公の施設の管理者の公募について報告をうけました。また、身近な問題であるごみ処理施設について上伊那広域連合からの説明をうけ、学習会を行いました。委員からの提案事項では、前回の協議会に引き続き電柱地中化、いじめ問題について協議を行いました。

報告事項

公の施設の管理者の公募について

従来、公の施設の管理については行政あるいは公共的な団体のみに限定されてきました。が、制度改正によりNPO法人や企業といった民間事業者でも公の施設の管理ができるよ

うになります。これによりサービスの向上、効率的な経費の削減による運用が図られることが見込まれます。

指定管理者を新たに指定する場合、引き続き従来からの事業者に指定する方法と、一般から広く公募を行い指定管理者の選定をしていく方法があり、どちらの方法にするかは、それぞれの施設の性格、目的、これまでの経過等を勘案して決める必要があります。公募する施設の選定については有識者による伊那市指定管理者選定委員会で検討していくこととなります。

特に地域に密着した施設に関しては、地域協議会での審議も行われます。

学習会

ごみ処理施設について

ごみ問題は私たちの生活に直結する大切な問題です。上伊那広域連合担当者を講師にごみ処理施設に関する学習会を行いました。上伊那広域連合では上伊那圏域内のごみの減量化と資源化を推進し、処理処分しなければならぬごみを適正かつ安全に処理するための基本指針となるごみ処理基本計画を平成16年度に策定し、この計画に沿って廃棄物行政を進めています。上伊那圏域内のごみ

処理の課題として、家庭系ごみの42%が生ごみで占められ、これを減量すること



とがごみ減量化に大きく寄与することから、

生ごみの堆肥化等資源化をさらに進める必要があります。またごみ減量化の施策として買い物袋の持参運動、廃食用油のバイオディーゼル燃料化や石鹸化など各市町村で特色ある取り組みを進め、減量化・資源化に資する施策を展開しています。

上伊那広域連合では、ごみ処理基本計画に基づき、上伊那圏域の市町村のごみを一本化処理するため、新しい中間処理施設の建設計画を進めています。計画されている施設の処理方法はごみを燃やして処理するのではなく、溶かして処理する方式のガス化溶融方式となります。

この処理施設の建設については新聞紙上でも報道されていますが、全ての市民の問題として認識し、真剣に考えていかなければなりません。



協議事項

各委員からの提案事項について

電柱の地中化について

前回の協議会に引き続き、電柱の地中化について協議を行いました。

委員からの意見としては、街路事業により整備された歩道を、再度、整備することによる莫大な費用を考慮し、電柱の地中化による景観整備に凝り固まらず、まず商店街を活性化させるための10年位のスパンでの計画・ビジョン作りから始め、商店街活性化の一つの策として電柱地中化を進めてはどうか。といった意見がありました。

行政と商工会、商店の経営者、周辺地域、消費者などで、高遠町地域の特徴あるローカル商店としての特徴を売ることができる商店街を目指した商店街再生プロジェクトを発足させ、そのうえで一番良い形のビジョンをある程度の期間をもち、電柱の地中化も含めた町並みのあり方を検討することを行政ならびに商工会に提案しました。

いじめ問題について

いじめ問題について、第八回協議会で教育長より伊那市のいじめの実態報告などを受け、今回、引き続き協議を行いました。

高遠小学校、高遠北小学校の両校に「より良い教育環境協議会」が組織されており、このメンバーの中に地域協議会の委員として加わり、その中でいじめ問題等を関係者と

もに考えることが提案され、高遠教育振興課を通じ、両校の「より良い教育環境協議会」への委員の参画をお願いしました。

平成十九年度 第一回地域協議会

議会議員定数問題 特別委員との懇談

平成十九年度、最初の地域協議会が平成19年4月24日(火)高遠町総合福祉センター「やますそ」で開催されました。

今回の地域協議会では、伊那市議会議員定数問題について高遠町区長会と合同により懇談を行いました。

協議事項

伊那市議会議員定数問題特別委員会との懇談会

出席者

伊那市市議会議長 下島 省吾

同 副議長 原 浩

伊那市議会議員定数問題特別委員会

委員長 中村 威夫 副委員長 春日 晋治

委員 竹中 則子 委員 前田 久子

委員 柳川 広美 委員 飯島 進

委員 中山 彰博 委員 飯島 進

委員 中山 彰博 委員 矢野 隆良

高遠地区区長会長 飯島 明

長藤区長会長 北原 正教

三義区長会長 原 康人

藤沢区長会長 伊藤 博

河南区長会長 北村 十九一

議会から正副議長、議員定数問題特別委員会委員が出席され、高遠町区長会との合同により懇談会を行いました。

議員定数問題特別委員会委員では3市町村の合併協議において、合併協定書第7項に「2期目以降の議員定数については、削減の方向で検討する」と明記され、これに基づき委員会を設置し、新伊那市における議員定数について検討を進めています。

委員からは、民意が反映できるには議員一人あたりに関わる人口数は3千人程度が妥当である。行財政改革推進上から、市の職員の20%削減と合わせ、議員定数も法定数に対する20%の削減。類似市町村との均衡を図った定数の確保。委員会構成から、現行の3委員会は最低必要である。これからの議員には、地域工コではなく広域的な考えを持つ資質が求められる。などの意見がでました。また、地域のごときは地域の代表者である議員が汲んでいることから、急激な削減により地域の声が市政に届かないのでは。高遠や長谷地域のように過疎化の進む地域での議員に対する思いを考慮してもらいたい。小さな地区が追いやられてしまわないか。という削減により民意が充分反映できない点を心配する意見もありました。

このほか、高遠町地域で行われているすみよい地域づくり事業や地域協議会の充実を図り、ここへ出た意見



を議会に結ぶ仕組みや方法を作ることにより、議員の果たす役割や機能も変わってくる。といった意見が出ました。

本件については、議員定数問題特別委員会により協議が行われ、今後は地域協議会長や区長会を交えた懇談を予定し、9月頃には市民の皆さんからのパブリックコメントが求められる予定です。




1 番委員
かきのき くにお夫
柿木 邦夫
〔高遠地区
区長会推薦〕

街やデパートなどで行き交う、母親に連れられた全然知らない小さな子どもの、きらきらした何の悩みも汚れもない無邪気な瞳を見ると、誰でも自然とかけより、あやしたり、話しかけなくなるほど可愛いものである。

動物でも生まれた時、小さな時は、何とも可愛いもので、飼い主は好きなように餌を与え、可愛がって育て、甘えさせ、成長しても小さい時と同じように甘えてさえいれば、目の中へ入っても痛くない程可愛がり、人間の住む家の中で、上等なソファーに寝そべり、服を着させてもらい可愛がられる。飼い主はそれで十分満足である。しかし、体が大きくなりすぎたり、飼い主が気に入られなくなれば、平気でよそへ捨てられる場合もある。しかし、人の子はただ食べ物を与え、可愛がって育てれば、いつまでも

親の気にいるように、可愛くおとなしくしているかと言えば、そうはいかない。小さい時から、欲しいと言えば何でも買ってもらい、おもちゃで遊んだあと片付けなくても親が片付ける。子どもの好きなようにさせて、何でも親が手を出してやっている、小学校くらいまでは、何でも親の言うこと聞き、素直で可愛く育つが、14、15歳くらいになって、自我が芽生えてくると、親の言いなりにならなくなってくる。

家への帰りが遅い。親の思う程は勉強をしないでテレビばかり。欲しいものも何百円、何千円だったのが、万単位になってくる。今まで何でも聞いてやり買ってたのに、「ここへ来て、ついに頭に来て、初めて「だめだ、いけない」と言う。生まれて初めての親の厳しい言葉を聞くことになるのである。

やりたいことは何でも通るわがままな子に育ってしまったので、自分がコントロールできず、子が親を殺す、親が子を殺さざるをえない事件が、このところ連日くらいにマスコミを賑わせ、あんなに素直な良い子だったのに、どうして、と




2 番委員
かすとおと
きたはら 和門
〔長藤区長会
推薦〕

昨年、七月長藤区長会の推薦を受けまして、地域協議会委員となりました長藤北部出身の北

原でございます。

合併しまして一年になりますが、新伊那市になり高遠地区民の多くの方たちは不満、不安を抱いているかと思えます。ひとつの例をとりますと、消防団も大きな団となり、地元での訓練等が無くなり、地域の一体感が薄れています。もう少し改革をして魅力ある消防団、安心して地域の防災を任せられる消防団にしていかなければと思います。

微力ながら高遠地区が活気ある住みよい地区になるよう努めたいと思っています。

大好きなゴルフと旅行、数年前より始めた妻との山歩きを楽しみながら頑張りたいと思います。



お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方、また地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、

『<http://www.city.ina.nagano.jp/info.rbz?nd=330&ik=1&pnp=50&pnp=330>』をご覧ください。

編集発行 高遠町地域協議会事務局

(事務局) 伊那市高遠町総合支所総務課内

電話 94 2551 FAX 94 3697

Eメール t-sou@nacity.jp

高遠町 地域協議会だより

平成19年9月発行 4号

地域協議会だより第4号では、19年度第二回、第三回、第四回協議会での協議等を行った結果をお知らせします。

第一回地域協議会

平成19年5月7日(月)
高遠町総合福祉センター「やますそ」

報告事項

伊那市地域づくり活動支援金について
市では地域資源(人、文化、自然など)を活かし、地域課題を地域自らが解決していこうとする実践的活動を支援するための制度を新設しました。

具体的な対象事業は、

・継続的に活動を続ける市民による5名以上の団体が行う地域づくりの実践活動
・先駆的かつ、他の地域への波及効果が期待される活動

・国、県、市などの補助事業の対象にならない活動

などで、【安心安全のまちづくり】【地域の活性化】【教育・文化・産業の振興】【生活環境の整備】【自治組織の充実】などの活動に対し、一年目は50万円を限度額に、二年目は対象経費の2分の1の相当額以内で25万円を限度額に支援されます。

既に本年度の対象事業については選考が行われましたが(選考結果は第四回地域協議会参照)、来年度も継続し

て事業が行われます。市民の皆さんの積極的なアイデアで、制度の有効的な活用をしてください。

協議事項

各委員からの提案事項について

松枯れ病現況調査と対策について

西高遠鉾持除で松くい虫による松枯れ病が確認されました。高遠町地域では初の松枯れ病であり、飛散する前に早急な対策が必要であることを提案し、罹病木の伐倒・燻じょう処理が市において行われました。

保科正之公周年祭実行委員会について

委員から保科正之公の功績や偉業を知ってもらったための周年祭を企画してほしいという提案がありました。市からは、全市的な実行委員会を組織し多くの市民参加のもと、大河ドラマ化に向けて推進していくこと、また2011年の生誕四百年に向け、毎年生誕祭を行い、功績を称えていくことが報告されました。

有害野生鳥獣対策の確立について

鳥獣害は農作物や林産物等の直接被害にとどまらず、生産基盤の破壊や人身に対する被害に及ぶまで至っています。これらの防止対策に実効ある抜本的対策の早期の実現に向けた対策について協議しました。主な内容に

ついては次のとおりです。

長期計画による森づくり策の実施
防護柵等の未整備地区への設置
捕獲檻、エアガン、罠等の貸与猟具の整備促進

第一種猟銃免許取得の激励措置の充実

モンキードック事業の導入

出没現場へ急行体制を確立する捕獲緊急連絡網整備

常習的な被害箇所を重点とした動物の種類、出没場所、対象作物などを調査した警戒マップの作成

捕獲獣の付加価値を高めるための加工、技術開発、施設充実など捕獲獣処分支援

専門スタッフを擁した広域的対策推進体制等の充実

本協議を経て、早急な

対策を市として実施する旨の提案を市長に行

いました。

第三回地域協議会

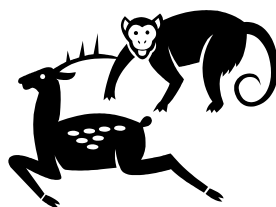
平成19年6月21日(木)

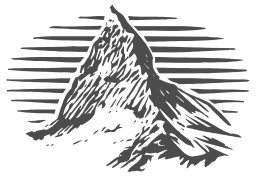
高遠町総合支所

協議事項

頑張る地方応援プログラムについて

総務省主導により、やる気のある地方が自由に独自の施策を展開することにより、「魅力ある地方」に生まれ変われるよう、地方独自のプロジェクト





トを自ら考え、前向きに取り組む地方公共団体に対し、年間最大三千万円三年間の地方交付税で支援措置が行われます。

このプログラムを伊那市では主として高遠町・長谷地域の振興策として活用する方針が示されました。プロジェクトは「南アルプス山麓『食と健康』プロジェクト」と題し、「食と健康」をテーマに南アルプス山麓が有する自然、歴史、文化、景観、気候、地形等地域固有の資源を発掘・活用することにより地場産業強化、交流人口の増加を図り、地域振興を図ることを目的としています。事業については次の13の事業が実施予定となっています。

ジビエ加工保存施設整備

有害鳥獣増加を防止するため個体調整を推進し、その中で捕獲されたニホンジカ、イノシシの肉の活用を図り、需要に対し安定供給するための施設整備を進めジビエのブランド化を図る。(ジビエ：フランス語で、狩りで捕獲して食用にする野生動物を意味し、これを用いた料理をジビエ料理という)

ミレット振興事業

健康志向により人気のあるミレット(雑穀)栽培の振興を図り、特産品とするための取組を行う。

ヤマブドウ製造

信州大学と連携し、健康長寿によりヤマブドウワイン開発に向けた取組を行う。

パノラマ信州薪街道

信州はそばの発祥の地、名産地として全国に知られており、伊那市においても高遠そば、行者そばと復刻し商品化されている。全国ではサミット開催により伊那市のそばのブランド化を図り、また伊那市から高山村までの国

道361号線を、そばをはじめ名物ローメン、ラーメンなどの薪街道として整備して連携する。

鹿嶺高原トレッキングコース整備事業

南アルプスの前山の雄大な自然を活かし、鹿嶺高原と入笠高原に至るトレッキングコースの整備を行う。

古道秋葉街道再生事業

旧秋葉街道は江戸時代遠州秋葉神社詣でをした道である。同街道を整備し、埋もれていた観光資源を活かし、地域活性化を図る。

分杭峠戸倉山トレッキングコース整備事業

里山健康登山ブームの中、気場でも有名な分杭峠から戸倉山までのトレッキングコースの整備を行う。

ウォーキングロード整備事業

美和湖周辺及び高遠湖周辺のウォーキングロードとして整備し、健康づくりに興味のある団体や個人、人間ドック等の受診者を対象に、恵まれた自然環境を舞台に健康推進や心身のリフレッシュを図る。

歴史・芸術散歩道整備事業

高遠町地域は長い歴史を持つ地域であり、数多くの史跡が存在する。これらを見学するウォーキングコースの案内看板を設置し、史跡等観光資源を活かした地域活性化を図る。

南アルプス自然体験ネットワーク事業

地域住民が講師となり登山体験、農業体験、林業体験、水辺体験、歴史体験など様々な体験型観光を通じ、新しい産業の振興や雇用の創出、住民の生きがい対策、地域アイデンティティの確立を図りながら地域振興を図る。

滞在支援組織設立・支援

宿泊支援組織の設立・支援、健康食の提供組織の設立・支援、山里生活体験組織の設立・支援等のネットワークづくりを行う。

気の里健康づくり事業

東洋思想に基づいた各種健康増進事業の展開を行う。

「食と健康の里」コーディネート設置事業

団塊の世代を中心にスローライフを楽しみたい人のために、食と健康をメインテーマに体にやさしい時間を過

ごすための様々なノウハウを提供する。

伊那市総合計画策定について

将来に向けた市民共通の目標と、その実現に向けた中・長期的(H20を基点に5年、10年)な計画として、総合計画を策定することを計画しています。策定にあたっては、伊那市・高遠町・長谷村合併協議会において慎重に審議し、市民の施策ニーズを反映させて策定された「新市まちづくり計画」を踏襲したうえで、社会経済状況の動向や変化に柔軟に対応し、新市の一体感醸成や行政課題を的確に解決するため、市民との協働の下、新たな行財政運営の指針として策定されます。次回協議会で高遠町地域協議会としての提案を検討することになりました。

有害野生鳥獣害対策

県や市町村を超えた広域的な対策として「南アルプス食害対策プロジェクト」が発足されました。

その内容は、南信森林管理署、信州大学、長野県、飯田市、富士見町、大鹿村、伊那市により対策協議会を設立し、鹿などの数を減らすための個体数調整を行う鳥獣保護管理計画等が検討されることになりました。

第四回地域協議会

平成19年7月27日(金) 高遠町総合支所

報告事項

伊那市新こみ中間処理施設用地選定委員会について
上伊那のこみ処理一本化に向け、議会代表

や市民団体からの推薦者、識見者、公募者などで構成する「新ごみ中間処理施設用地選定委員会」が発足し、候補地の選定が行われています。また処理施設の選定や減量化、資源化推進の検討を行う「ごみ処理基本計画推進委員」が並行して行われています。今後、委員会の検討結果を受け、12月頃には市長が最終候補地を決定する予定であると報告を受けました。

委員からは、青森県八戸市で行われているような生ごみ等でバイオガスを発生させ、焼却施設内の電気エネルギーとして活用しては、といった意見がありました。

ごみ処理問題は生活に直結する身近な問題です。コスト面、環境面からもごみの発生の段階で削減していくことが最も有効です。これを機会に各家庭において、ごみの削減について話し合ってみてはいかがでしょうか。

伊那市地域づくり活動支援金事業選考結果について



市民が自発的に行う地域の課題解決のための実践活動に対し支援し、地域に根付く地域づくりを進めるため創設された本支援金に対し、33件の応募があり選考の結果17件が採択されました。高遠町地域

関係からは次の3件が採択されました。

「勝間の枝垂れ桜を守る事業」

勝間の枝垂れ桜を新たな観光スポットとして未永く守るため、老木のコケ、宿り木の除去などを行う。

「花卉栽培による農耕地有効利用とホームページによるPR」

湿地を有効利用したアヤマメ、菖蒲等の栽培、山室遠照寺周辺ポタン栽培、情報発信のためのホームページ作成などにより地域のPRと交流の場づくりを図る。

「西高遠仲町通り花いっぱい運動」
桜シーズン以外にも街路に花を飾り、環境美化に努める。

この事業は本年度から5年間継続されます。ただし、一事業最長2年で、2年目は2分の1の補助率となるので、皆さんも積極的に活用し地域づくり活動に役立ててください。

現在、市で検討が行われている交通ネットワーク

ワークシステムの構築について説明がありました。旧3市町村ではそれぞれことなる基準のもと交通施策の整備が進められ、地域ごとに施策数の格差が生じています。旧高遠町、長谷村では路線バス撤退が顕著であり町や村で足の確保対策をしなければならぬ事情もありました。検討委員会では、採算性を考慮した見直しを検討されていますが、高遠町地域に関しては、当面の間は現状維持を基本とし、利便性の向上を目的としたルート変更などについて検討されていきます。

また委員からは利用した分だけ割引されるなどの施策の検討や観光客の利用を考慮した対策などについて意見が出ました。

伊那市総合計画策定について

前回協議会において募集が行われた伊那市総合計画への提案について6名の委員から提案が行われました。また高遠町地域協議会としての提案について協議し、次の提案を提出しました。

「地域住民発議による市民のための効率的行政の推進」

地域住民の発想や地域の実情に基軸をおいた効率的かつ効果的な行政を住民との協働により推進するため、その手法として現行高遠町地域で実施している集落、町内会、区単位で年次ごとの「地域等振興計画」(すみよい地域づくり計画)を今後とも継続実施するとともに、この手法を全市的に行う方針を明らかにし「地域密着型」の市政を展開する必要がある。

「次期過疎地域自立促進特別措置法の制定について」

1. 現在、新伊那市の旧高遠町、旧長谷村は合併後も本法律の適用を受け、過疎債や地方交付税の特別措置の適用により、住民こそって過疎からの自立、過疎からの脱却を目的に尽力をしている。しかし、依然として人口の減少、高齢化の深刻化が進んでいる状況下にあることから、旧伊那市の都市的機能の発達した地域との均衡ある発展を果たすため、平成21年度の期限をもっている現行法を踏まえて、早急に「新過疎対策特別措置法」を立法化するよう国、県へ強力に要請すること。

2. 新法の立法化にあたっては、合併前の旧高遠町、旧長谷村等、現行法の適用を受けている地域を継続して支援する必要があることから、これらの地域を「部分過疎地域」として、地域指定が受けられる措置を立法化の中に位置付けること。

3. 特別措置法の主内容として、現行の過疎債、地方交付税措置は最低限継続すること。

4. 支援措置として、特に限界集落の再編構築、生産並びに生活インフラ整備に対し、国等の関係省庁が横断的に対応する助成施策を講じること。
委員からの提案事項について

伊澤修二先生記念音楽祭について

旧高遠町から行われていきます伊澤修二先生記念音楽祭を一部と二部に分け、会場を変えて開催されることについて、委員より今までどおり先生の生まれた高遠町で開催することが要望されました。要望に対し担当課より次のとおり回答がありました。

「旧高遠町からの伝統ある伊澤修二先生記念音楽祭は、今後新「伊那市」を代表する、市外に誇れる伊那市ならではの音楽祭に発展していかなければなりません。また今後は音楽のみならず美術面においても芸大等との連携を図り新たな交流を深めていかなければなりません。そのためには一人でも多くの市民の皆さんに芸大のオーケストラを聴いていただくことが大切であり、ひいては伊澤修二先生という人物について多くの市民が学ぶことにもつながります。全ての日程が伊那文化会館に変更されるのではなく、芸大の指導を受け小学生の発表や中学生の合唱などは従来どおり高遠町文化体育館で実施され、芸大学生オーケストラの演奏と合唱団の合唱は伊那文化会館で行われます。」

委員からは、この趣旨を高遠町地域の皆さんにしっかりと周知し、理解を得てほしいという要望が出され、市報等に掲載し理解を求めることが回答されました。また従来どおり

会場への送迎バスの手配についても運行されます。



5 番委員
伊藤 脩
いとう おきむ

河南地区
区長会推薦

今の床屋さんに通い始めて、かれこれ数十年になる。丁度退職と同時であり、他の床屋さんに行くことなく馴染みの床屋さんになっている。最近は理髪店とか Barber といったが私にとっては「床屋」が最も使い慣れた言葉である。戦前というより江戸時代の頃より髪結床から明治になって理髪店となったようであるが床屋は銭湯と共に庶民の憩いの社交場でもあった。

時代は変わり銭湯はほとんどなくなり、床屋ではお客が集まって自由闊達にまた気楽に話をする場ではなくなりました。それでも私の行く床屋の主人や奥さんは、散髪をしながら話をする中で話題は豊富であり場をもたせてくれる。また散髪に来た客が言われている話や世間話など私によくしてくれるし私もそれに加わることにしている。

私が地域に関係した仕事をしているのを知っているのかどうか分からないが、合併によって高遠が良くなったのか、悪くなったのか、また今後どうなっていくのか、お客の話を交えて話されることがあり、時には私の考えを聞かれることがある。その話題のいくつかは今後私の仕

事の中に生かされなければと思うし、この機会を大事にしたいと思っている。

主人の言うのには、私は大物である

という。と言うのは店に来る客の中4、5人は、ひげを剃る時に豪快に眠るらしい。私も眠るつもりはないが気持ちが悪くなって眠ってしまう。失礼なことは重々分かっているが、今回も丁度町の灯籠祭りの話になって来て、古くからの伝統的な祭りであり二つを一緒にして、日を変えてと言うが、庇を貸して母屋を取られたのではないかと町の人達は言っているが、これについてどう思うかと問われ、これは弱ったことだと思つたとき、ひげ剃りに入るところだったので、大物ぶりを発揮してこれは丁度いいぞと眠りに入ってしまった。



お知らせ

地域の身近な課題や問題点などが、どのように議論されているのか地域協議会を傍聴してみませんか。傍聴を希望される方、また地域協議会に対するご意見、ご質問等は協議会委員または高遠町総合支所総務課までご連絡ください。

高遠町地域協議会をはじめ、伊那市の地域協議会に関する情報は、
『 <http://www.city.ina.nagano.jp/info.rbz?nd=330&ik=1&pnp=50&pnp=330> 』
をご覧ください。

【次回地域協議会は10月12日(金)高遠町総合支所にて行います。詳しくは事務局までお問い合わせ下さい】

編集発行 高遠町地域協議会事務局

(事務局) 伊那市高遠町総合支所総務課内)

電話 94 2551 FAX 94 3697

Eメール t-sou@nacity.jp